

ひとはく 研究員自慢の お宝

研究員8名がそれぞれの視点から選んだ逸品です。



ダイセンミズギワナガゴミムシの
ホロタイプ (B1-311923)

ナガゴミムシ類(*Pterostichus* 属)は「ブテロ」とも呼ばれ、人気のある昆虫です。人気といっても激しい地理的分化と形態の多様化が興味深いという、玄人好みの人気です。分類学的研究も進んでおり、日本から百種以上が知られています。

ダイセンミズギワは1958年に石田裕氏により記載命名された種で、そのホロタイプがこの標本です。大倉正文コレクションの一点として収蔵しています。
(石田裕氏・自然・環境評価研究部)

ニホンアミカモドキ
(学名:*Deuterophlebia nipponica*)

ハエ目の昆虫で、特徴的な形態を有し(大きさは2mm程度)、氷河期の遺存種と考えられている。兵庫県では、氷ノ山周辺の源流河川の激流部に生息。最近になって県内2箇所で見発見されただけで、全国的にも極めて珍しい。

(三橋弘樹・自然・環境マネジメント研究部)



収集されたいろいろな種子・果実

博物館ではジーンバンク事業で生きている種子を冷蔵保存していますが、これら以外に乾燥した種子・果実の標本を収集・整理しています。日本産の種子はもちろん、熱帯雨林の様々なフタバガキ科の果実や、海流によって運ばれた種子・果実など、約6000点の標本が収蔵されています。

(小笠原治・自然・環境再生研究部)



コビトドン
(学名:*Kopidodon macrognathus*)
(新生代第三紀始新世)

コビトドンは新生代のはじめ頃に急速な適応放散を遂げた初期の哺乳類のひとつで、この標本は全身の骨格がほぼ完全に保存されたものです。

(三橋春生・自然・環境評価研究部)



貴重な植物群落や植物の映像資料

博物館では兵庫県を中心として全国の貴重な植物群落の写真(映像資料)を収集しています。またそれらの植物群落を構成する植物の写真も収集・整理しています。これらの写真は、印刷物・展示をはじめ様々な研究や普及活動に活用されています。

(小笠原治・自然・環境再生研究部)



西国名所図会

幕末の画家、五雲亭貞秀(ごうんてい ていしゅう)の錦絵による山陽道の名所案内記、図版は全25枚。起点の大坂(おおさか)から終点の長州(ちょうしゅう、現在の山口県)萩までの名所が一ヶ所一枚の絵で紹介されています。

(客野尚志・自然・環境マネジメント研究部)



様々な場所・様々な時期に採られた同じ種の植物

分布やその変化、生活史など生物を知る上で重要な情報は、同じ種の多くの標本によって、はじめて知ることができます。これらの標本は変異の幅を把握する材料にもなり、種の範囲を考える上でも非常に重要な資料です。これらもりっばなお宝のひとつと言えるでしょう。

(市島静香・自然・環境評価研究部)



神戸市東灘1700mボーリングコア

1995年版神淡路大震災の直後、当時の地質調査所が阪神間の平野の地下構造をさぐるために掘削しました。深さ約1550mで花崗岩類に達した、阪神間でもただ一つの深層ボーリングコアです。

(加藤茂弘・自然・環境評価研究部)



トキ(学名:*Nipponia nippon*)

ニッポニア・ニッポンの名が示すとおり、日本を代表する鳥であるが、現在では中国で野外繁殖するのみとなった。この標本は1942年2月8日に朝鮮半島の全羅南道で採集されたオスである。

(江崎保男・自然・環境マネジメント研究部)



出石のまちなみ模型

城下町「出石」は、兵庫県北部の担馬に位置しており、古くからのまちなみを現在に残しております。雪どけ水の流れる水路や瓦の屋根並み、板の壁や白壁が特徴的です。この模型は出石のまちなみを再現すべく、詳細に作りこまれており、ある時点のまちなみの記録となりえるものです。

(客野尚志・自然・環境マネジメント研究部)